

米連邦準備理事会（FRB）が3月に、2019年中の利上げを見送り、9月末で資産縮小も停止するとの方針を示してから、マーケットは今後も緩和基調が継続されることを好感し、世界同時株高となりました。特に米ダウ工業30種平均は、昨年10月の最高値目前まで上昇してきました。

この株価上昇は、大きく相場が下落するのを見込んで売却していた投機筋の買い戻しが主導したものです。長続きはせず、長期スタンスの投資マネーは、今後は株式などリスク資産から国債など安全資産・確定利回りものに向かうという見方があり、私も同じ見方をしています。

たとえば、株式の配当利回りと同利回りが同じ水準で株式の値上がり期待が強いときには、国債よりも株式への投資を選択する方が多いと思います。逆に、株式の値上がり期待よりも値下がりリスクが大きいときは、株式など値下がり幅の大きなリスク資産への投資を控えて、国債などの安全資産を選択し、大きな値下がり回避したい方が増えます。

●引き締め中止で債券に向かう資金

FRBが、景気の減速を懸念して金融引き締めの政策を中止したことにより、金利上昇懸念は当面なくなりました。「金利上昇＝債券価格の値下がり」という債券投資のマイナス要因が消えた以上、高金利かつ確定利

回りである債券が物色されると考えるのが自然だと思います。

表をご覧くださいと、米10年国債利回りは財政破綻が懸念されるイタリア国債並の高利回りで、しかもEU離脱で混乱する英国や高利回り国として常連国であったオーストラリア・ニュージーランドに比べ、どの期間をとっても米国金利のほうが高いことがわかります。

米国が他国に比べて高金利であることに加え、世界で一強と言われるほど米国景気が好調であること、日欧とは異なり、景気悪化懸念に対して利下げなど景気を浮揚させる金融緩和政策に余地を残していることなど、米国債の安定性・優位性が高まってきました。

FRBが金融政策のスタンスを引き締めから転換したにも拘わらず、懸念されている世界的な景気減速が表面化すれば、高値圏であった株式などリスク資産は利益確定を急いで売られます。また、米国債が買われて利回りが低下し2%を割り込む事態になることも想定されます。

こうなった時のリスク資産は、質の良いものも悪いものも一緒に売られていく玉石混淆相場に入っていくわけですが、このときこそ、石に混ざった玉を探す、割安になったものに投資するチャンスでもあります。

玉石混淆相場がすぐ起こるのか、半年後、1年後かはわかりませんが、

今は少なくとも高値を心配されている投資対象は避けたほうがよいでしょう。もし今投資先を探していच्छるなら、現在高金利状態にある米国債を筆頭とする、米ドル建て債券をお勧めします。

●米ドル建て新興国債券に注目

あらためて表をご覧ください。ハイイールド債利回りは6.54%です。ハイイールド債は格付けBB（ダブルB）以下の低格付け債のことで、償還までの間に元金の支払いが滞るデフォルトの発生する可能性がある債券のことです。

確実に現金として戻ってくることを考えれば米国債が安心ですが、リスクにリターンが見合っていると確信が持てるのであれば、高利回りが得られるハイイールド債への投資も選択肢になります。

ハイイールド債には社債と新興国債券がありますが、社債よりもデフォルトの可能性が低い新興国債券がお勧めです。そして、投資を検討するなら、分散投資を可能にする投資信託を通じて投資する方法がよいでしょう。

つまり、今後の投資環境において、ある程度のリターンを確保したい方には、まずは米国債。この利回りでは物足りない方は、リスクとリターンのバランスを考えてハイイールド債まで視野に入れます。国内がゼロ金利の環境の中で、米ドル建て債券投資は年2.38%～6.54%のリターンが期待できる投資対象だからです。

もちろん、この利回りは米ドル建てであり、為替リスクを伴います。しかし、私は当面ドル安時代はこないと考えます。理由は高金利安全通貨として米ドルへの資金流入が下支えとなるからです。私と同様に考える人にはお勧めの投資先です。

【国別・期間別 国債利回り比較と米ドル建て資産利回り比較（%）】

	2年	5年	10年	米ドル建て資産利回り
米国	2.380	2.369	2.560	株式 2.00
オーストラリア	1.498	1.548	1.925	国債 2.56
ニュージーランド	1.493	1.670	2.000	リート 3.71
イギリス	0.763	0.906	1.189	ハイイールド債 6.54
イタリア	0.545	1.666	2.612	MLP 7.90